

平成28年2月15日

新宿区長様

法人名 NPO 法人自立化支援
ネットワーク
所在地 東京都新宿区三栄町8-37
(フリガナ) ショウブ ケイスケ
代表者氏名 理事長 生部圭助

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	区民の情報リテラシーの向上に資する タブレットとスマートホンの講座
実施日時又は期間	全期間：2015年6月～2015年12月
対象者の範囲及び人数	対象者：新宿区民 受講者数合計135名（タブレット：33名 スマートホン：102名）
事業内容	新宿区民より公募し、四谷ひろばパソコン教室で、タブレットとスマートホンの無料講座を開催した。
具体的な活動状況	<p>(1) タブレット講座 (A:午前、P:午後 カッコ内は受講者数) 講座の実施：各コース2時間を3回開催 開催期間：2015年8月に2コース、9月に1コースを実施 ①8/17 A-18A-19 A (11名)、②8/17 P-18P-19 P (11名)、 ③9/13 P-20P-27 P (11名) 合計33名</p> <p>(2) スマートホン講座 (A:午前、P:午後 カッコ内は受講者数) 講座の実施：各コース2.5時間を3回開催 開催期間：2015年7月～12月に毎月1コースを実施 (8月には2コース実施) ①7/14 A-21A-28 A (15名)、②8/3 A-4A-5 A (14名)、 ③8/24A-24 P-25 A (14名)、④9/7 P-14P-28 P (14名)、 ⑤10/2 A-9A-16 A (15名)、⑥11/10 P-17P-24 P (15名)、 ⑦12/2P-9P-16P (15名) 合計102名</p>
事業の成果	<p>タブレットやスマートホンに触ったことのない人は、これらの新情報端末が自分の安全に役立ち、便利に楽しく使うことができることに興味を持つようになった。</p> <p>携帯電話を使用している人にとっては、スマートホンとの差を知った。</p> <p>タブレットやスマートホンを持っているが使いこなしていない人にとっては、新情報端末をより有効に使うことが出来ることを学んだ。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			9,887 円
	参加費・資料代等			円
	その他の収入	・サムスン電子ジャパン株式会社より運営費 @6,000 円*102 名=612,000 円		612,000 円
	協働推進基金助成金	助成金交付額		300,400 円
	計			
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	41,700 円	四谷ひろばパソコンルーム利用料 ・打合せ（午前）：@1,000*3 回=3,000 円 ・タブレット講座（午前）： @1000 円*3 回*1 コース=3,000 円 ・タブレット講座（午後） @950 円*3 回*2 コース=5,700 円 ・スマホ講座（午前） @1000 円*3 回*3 コース=9,000 円 ・スマホ講座（午後） @1,900 円*3 回*3 コース=17,100 円 ・スマホ講座（午前 2 回&午後 1 回） @1,000*2 回+@1,900 円*1 回=3,900 円	
	宣伝費	0 円		
	リース費	132,277 円	・タブレット運搬費用： 宅配送料 1,088 円 梱包用箱代 184 円 ・スマホ運搬費用： 宅配送料 2,160 円 ・SIM カードレンタル代（55,080 円 + 73,765 円 =128,845 円） 全 17 台（受講生 12 & 講師 1&予備 4） 契約事務手数料@3,240 円*17 台=55,080 円 毎月リース料：73,765 円 7 月：11,103 円 8 月：14,206 円 9 月：13,409 円 10 月：13,288 円 11 月：13,288 円 12 月：8,471 円	
	消耗品費	27,910 円	・コピー用紙（A4）：1 円*50 頁*150 名=7,500 ・印刷インク代：20,410（10,205+10,205）	

謝礼	0 円	
人件費	97,046 円	<ul style="list-style-type: none"> ・講師スタッフ打ち合わせ @1,000*10 人*3 回=30,000 円 <打ち合わせ小計：30,000 円> ・タブレット講座： 講師：@1,200*1 名*2h*3 回*3 コース=21,600 円 （うち、助成対象外事業費・1 時間単価 1,000 円を 超える分：200*1 名*2h*3 回*3 コース=3,600 円） =18,000 円 アシスタント：@1,000*4 名*2h*3 回*3 コース=72,000 円 ・スマートホン講座： 講師：@1,200*1 名*2.5h*3 回*7 コース=63,000 円 （うち、助成対象外事業費・1 時間単価 1,000 円を 超える分：200*1 名*2.5h*3 回*7 コース=10,500 円） =52,500 円 アシスタント： @1,000*3 名*2.5h*3 回*1 コース=22,500 円 @1,000*4 名*2.5h*3 回*6 コース=180,000 円 <講座小計：345,000 円> ・タブレット設定作業： 初期設定：1,000 円*1.5h/台*13=19,500 円 返却時初期化・充電：1,000 円*1.0h/台*13 =13,000 円 ・スマートホン設定作業： 初期設定：1,000 円*1.5h/台*17=25,500 円 返却時初期化・充電：1,000 円*1.0h/台*17 =17,000 円 設定作業計 75,000 円（19,500 円+13,000 円+25,500 円+17,000 円） （うち、助成対象外事業費 5 名分・1 日あたり 4,000 円を超える分： 9,500+500+2,000+500+1,500=14,000 円） =61,000 円 <設定作業小計：61,000 円> ・テキスト作成費（本講座用にカスタマイズ） テキスト全体の構成及び 1 回目：30,000 円 2 回目：20,000 円 3 回目：20,000 円 <テキスト作成費小計：70,000 円> <p>* 506,000 円の内 408,954 円は助成対象外事業費へ</p>

	材料費	0 円	
	交通費	186,300 円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打ち合わせ： 10 人*3 回=31,140 円 ・ 講座： <ul style="list-style-type: none"> タブレット： 4 人*2 日*3 コース 全 13 名分： 32,440 円 スマホ： 4 人*3 日*1 コース スマホ： 5 人*3 日*6 コース 全 24 名分： 101,920 円 ・ 講座以外 設定作業： 20,800 円 (タブレット 8 人+スマホ 8 人)
	その他諸経費	0 円	
助成対象事業費 (小計)		485,233 円	
余 剰 金		円	
助成対象外事業費		437,054 円	人件費： 408,954 円 (人件費 20%を超える分) +14,100 円 (人件費時間単価 1,000 円を超える分) +14,000 円 (1 日当たりの勤務が 4 時間を超える分) =437,054 円
事 業 総 額			922,287 円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	受講者数 (タブレット)： 3 コース実施し、33 名の受講者があった。 受講者数 (スマートフォン)： 台数が余分に借用できたので、余分に受付、目標の 12 名/コースを越す受講者 (平均 14.6 名) を確保することが出来た。 講座の内容： レベルを保持することが出来た。アンケートの結果、92%の受講満足を得られた。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	タブレットやスマートホンの有用性に対する認識が高まった。 アンケートの結果、スマホを購入希望、購入を検討したい人が 60%に達した。

費用対効果は適正であったか。	<p>受講生にとって：通常有料で受講できる内容の講座を無料で受講できた。</p> <p>実施団体（IDN）にとって：総事業費に対する効果は明確には計ることは難しいが、多数の区民のリテラシー向上に資することが出来た。</p>
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	<p>講座を無料で開催する場合、受講生の受講に対する義務感が薄いように感じた。予約を直前に取り消す（連絡なしで欠席もあり）、3回の講座を全うしない人も見られた。</p> <p>今後については、受益者負担（受講料を戴く）方式の講座の実施についても検討してみたい。</p>
理解者や支援者が広がったか。	<p>区民の ICT リテラシー向上の為の講座を実施することに共感していただいて、タブレットやスマートホンの無償提供、運営費用の支援が得られた。</p>
事務局の執行体制は十分だったか。	<p>7月のスマートホンのコースを実施した結果、受講生の不用意な操作などによる機材の異常作動などのフォローが多発したので、8月より、サポートを兼ねたアシスタント要員を1名増員（メイン講師：1名、アシスタント：4名の体制）して、以後の9コースを実施した。</p>
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。	<p>今回はサムスン（スマートホン）およびソフトバンク（タブレット）より機材提供などの支援を受けることが出来た。企業の支援に目を向けて支援を活用させてもらうことの体験ができた。</p> <p>しかしながら、企業も経営環境の変化などで、NPOなどを支援することの難しさも見受けられる。</p> <p>支援先の企業を探すことは継続するべきであるが、受講料を戴いた講座の可能性について検討を継続したい。</p>
その他	<p>講座の実施において、諸々の経費に対する支援はありがたいことである。</p> <p>いつも受講生の募集については苦勞しているが、今回は「広報しんじゅく」に講座の開催と募集案内を掲載していただき、毎回、定員を上回る受講希望者を得たことを特筆しておきたい。</p>

4 活動の成果 次ページに記す

* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。

* 参加者の意見なども報告してください。

平成27年度
区民の情報リテラシーの向上に資するタブレットとスマートホンの講座
資料リスト
NPO自立化支援ネットワーク

1. スマートホン受講者のアンケート結果

初日:

- (1) アンケート用紙:【資料 H21-0】
- (2) 講座を受講したいと思った動機(きっかけ):【資料 H21-1】【資料 H21-2】【資料 H21-3】

最終日:

- (1) アンケート用紙:【資料 H22-0】
- (2) 受講結果の満足度:【資料 H22-1】
- (3) 受講者の年齢・性別:【資料 H22-2】
- (4) スマートホンを所有しているか・どの事業者のスマートホンか:【資料 H22-3】
- (5) スマートホンの活用意向・使ってみたいアプリ:【資料 H22-4】【資料 H22-5】

2. タブレット受講者のアンケート結果:

最終日:

- (1) アンケート用紙:【資料 H23-0】
- (2) 受講結果の満足度:【資料-H23-1】
- (3) 受講者の年齢・性別:【資料- H23-2】
- (4) タブレットの活用意向・使ってみたいアプリ:【資料- H23-3】【資料- H23-4】
- (5) 知りたい・コメント:【資料- H23-5】【資料- H23-6】

3. 講座の開催風景の写真【資料 H30】

- (1) 講座を実施した会場:四谷ひろば
- (2) パソコン教室及び講座風景
- (3) 講座に書画カメラを活用した
- (4) 受講サポートの様子
- (5) アプリを体験する
- (6) コース最終日(3回目)に全員で記念写真

4. 講座開催のチラシ(例示)

- (1) タブレット講座 (8月 9月):【資料 H41】
- (2) スマートホン講座(8月 9月):【資料 H42】

5. 講座のテキスト

- (1) タブレット講座 【資料 H50】
- (2) スマートホン講座【資料 H60】